

## 第28回川崎市文化芸術振興会議（摘録）

- 1 会議名 川崎市文化芸術振興会議
- 2 日 時 平成25年3月12日（火）  
午前9時30分～午後0時
- 3 場 所 明治安田生命ビル2階第3会議室
- 4 出席者
  - (1) 委 員 澤井委員（議長）、猪口委員、城谷委員、高田委員、野畑委員、林委員
  - (2) 教育委員会事務局  
指導課 野崎係長、佐藤職員  
幸区・教育担当 橋谷担当課長
  - (3) 事務局 市民・こども局市民文化室  
大坪担当課長、石床担当係長、西塚職員
- 5 議 題
  - (1) 子どもの音楽活動推進事業について
  - (2) 文化芸術振興計画の改定について
- 6 公開・非公開の別 公開
- 7 傍聴者 0名

### 【審議内容】

事務局 委員過半数の出席により、会議が成立した旨を確認。

澤井議長 それでは、教育委員会事務局からの資料について説明をお願いしたい。

教育委員会 資料1-1は「子どもの音楽活動推進事業」の内容になっている。「音楽のまち・かわさき」を推進する一環として、子どもたちに音楽の素晴らしさを味わい体験することを通して、子どもたちの豊かな感情を育み、生涯を通じて音楽を愛好する心情を育てることを目的として実施している。4つの柱を中心として事業を展開しており、1つ目は「地域に開かれた子どもの音楽活動推進事業」である。目的は市内で活躍する音楽家や市内の音楽大学と連携し、子どもたちに音楽に興味を持ってもらうことである。毎年市内から20校程度選出し、各学校の特色を活かした事業展開をしている。音楽大学の学生に来てもらい、管楽器・弦楽器の音の出る仕組みや、実際に楽器を借りて演奏する事業などを行っている。また、別の学校ではリトミックなどの参加型体験活動も行っている。2つ目は、「子どものためのオーケストラ鑑

賞事業」である。この事業は、子どもたちが音楽のよさや美しさを感じ取ることを目的に、本格的な音楽ホールでオーケストラの演奏を鑑賞する機会を提供している。毎年、東京交響楽団に依頼しており、ミュージア川崎シンフォニーホールで開催していたが、震災によりホールが使用できなくなっていた為、今年度は教育文化会館で実施した。来年はミュージアで開催する予定である。3つ目は、「ジュニア音楽リーダー育成事業」である。これは音楽大学との連携事業となっていて、大学生が中学校の吹奏楽部に演奏指導を行うものであり、部活動や、学校の音楽授業の中心となるジュニア音楽リーダーを育成している。今年度は中原区と多摩区の中学校を対象に音楽大学の施設を利用し、3回実施した。4つ目は「子どもの音楽の祭典事業」である。この事業は市内の小・中・高校生が日頃の音楽活動の成果を発表する機会の場を提供している。1部は市内の中・高校生から公募で集めた子どもたちで、「ヤングかわさきジョイフルバンド」を結成し、他の学校の生徒や違う学年の生徒たちと一緒に練習し、成果を発表している。2部は合唱やピアノ・バイオリンの独奏など多くのジャンルの方々に出演してもらい、日頃の成果を発表してもらっている。初めに「地域に開かれた子どもの音楽活動事業」や「子どものためのオーケストラ鑑賞事業」を通して子どもたちに音楽に親しんでもらい、中学生になった時に「ジュニア音楽リーダー育成事業」で音楽の技能を高めてもらう。そして最後の「子どもの音楽の祭典事業」がそれらの成果を発表する場となっている。

澤井議長 議題(1)の「子どもの音楽活動推進事業について」委員の皆さんから何か意見はあるか。

林委員 「子どものためのオーケストラ鑑賞事業」を視察したが、大変素晴らしい内容だったと思う。全5回開催ということであったが、川崎市にはたくさんの子供たちがいるので、必ずしも全員に行き渡っていないということがある。予算の関係もあると思うが、できる限り全員が聴ける体制にしてほしい。学校に希望を聞いて、希望した学校を対象にしてしまうと、先生の意向やスケジュールで判断してしまう可能性もある。子どもの期待に添えないことがないように出来ないものか。また、オーケストラ鑑賞はどのくらい広い音楽のジャンルを対象としているのか。

教育委員会 1つ目の「学校の希望により」ということであるが、希望する学校はなるべく参加できるようにしている。しかし、交通事情などにより参加しにくい学校はある。それについては広く広報していきたいと思う。2つ目のオーケストラ鑑賞についてであるが、芸術鑑賞ということでアンサンブルなどを呼び、鑑賞している学校はある。しかしオーケストラとなると、たくさん的人数を呼ばなければならない。学校側の施設面や経済的な面で難しいので、オーケストラ鑑賞はミュージアに来て聞くのがよいのではないかと考え、取り組んでいる。

林委員 希望しない学校への対策はどうなっているのか。広報するだけなのか。

教育委員会 参加していない学校は、音楽に親しんでいないかということ、そうではなく、学校独自で行っている場合もある。

- 澤井議長 学校独自でやる場合に、教育委員会事務局や市民文化室で東京交響楽団の一部を派遣するなどにはできないのか。
- 教育委員会 今のところ学校独自で行っている。
- 澤井議長 出前オーケストラのようなものできないのか。
- 林委員 毎回同じ地域だから、開催場所を変えてはどうか。
- 教育委員会 それについても考えているが、「ミュージザにきたい」という意見が多い。また、北部の市民館大ホールも考えてはいるが、キャパシティが小さいので全体の参加する学校の数が少なくなってしまうと考えている。そのため場所を変えるのは難しい。
- 林委員 例えば川崎市の施設ではなくても、近隣の自治体の施設などはどうか。
- 澤井議長 昭和音大は使えないのか。
- 教育委員会 それもキャパシティが小さい。収容人数が1,000を下回る。
- 澤井議長 確かに学校によって来られる・来られないがあるのは気の毒である。
- 野畑委員 小・中学生の何割ぐらいが希望して聴いているのか。
- 教育委員会 小学校113校のうち80校が参加した。中学校はオーケストラ鑑賞には参加していない。2・3年前は参加していたが、内容が小学生向けなので希望も少なく、今回は小学校を対象とした。
- 野畑委員 80校であれば、相当聴いていることになる。参加している子どもたちが一生懸命でとても素晴らしかった。とてもよい事業なのでなるべく多くの人に来てほしい。ディズニー音楽の楽器解説がよかった。
- 猪口委員 参加できない子の要望をどう聞いているのか。アンケートを実施しているのか。
- 教育委員会 学校単位の要望なので個々に子どもたちの意見は聞いてないが、参加が多いのは川崎区、幸区の子どものため日頃オーケストラ鑑賞の機会が少ない学校が考えて応募しているように思える。参加していない学校は近くに昭和音大があるなどわざわざ出向かなくても身近に音楽資源がある学校が多いように思われる。また、「地域に開かれた子どもの音楽活動」に参加するなどして音楽に係わっている。
- 猪口委員 ミューザに行きたいのに通っている学校が応募しなかったから行けなかった、となった時の要望の取り入れ方のアイデアがあればと思って質問してみた。
- 澤井議長 「子どもの音楽の祭典」はよい事業だった。2部で行った音楽発表会はテープ審査だったと思うが、技能の高い水準の演奏と、音楽学校の発表会といった演奏と、グレードに差があったように思える。この事業は、音楽を習っている人の発表の場ではなく、川崎市の高校生までの音楽イベントとして一番高い水準に位置するものだと思う。最高峰に位置する発表会であれば、ハードルを高くして、努力させてよい演奏をさせるのがいいようにも思えたが、どういったコンセプトとして考えているか。
- 教育委員会 日頃の音楽活動の発表の場ということと、「子どもの音楽の祭典」なので、お祭りのような要素も含め、演奏者にはある程度の水準を設け、なるべく多くのジャンルで出られるような選定はしている。過去にはウクレレやマリンバなどもあった。

また、学校の中休みに歌の独奏を練習し、高い水準に達した子どももいるなど、いろいろなジャンルの学生を選出している。

澤井議長 ジャンルを広げようという趣旨か。

教育委員会 高い水準ばかりで選ぶと、ピアノのソロ演奏ばかりになってしまう。そのため、広いジャンルで募集している。募集のジャンルの中ではピアノのソロや合唱の応募が多く、倍率も高かった。やはりジャンルによってレベルの差は出てしまうが、一定以上の技量を選出の条件にはしている。

澤井議長 教育委員会事務局だけでなく市全体として、人材発掘的な能力のある子どもたちを見つけてあげるプログラムがあるといい。

野畑委員 以前は川崎市主催の音楽コンクールがあり、それは専門別に先生が審査していた。市がテープ審査をするのでは教育委員会も大変だと思う。それよりもコンクールを開催した方がいいと思う。このスタイルを見直した方がいいと思う。

高田委員 「子どもの音楽の祭典」にしてもお祭りのような要素があるということと、ジャンルによっては、質の高低があるということなどを考えると企画・実施の大変さはよくわかる。個々の事業はよいが、小・中・高校生を中心にした音楽事業とは離れて、素質のある子を育てるような事業の推進をするのもよいであろう。また、子どもたちにはミュージアを使って体験する素晴らしさを知ってほしい。おとなになってからでも、「あの時ミュージアで聴いた」というように経験に活かされるならば、事業に大きな意味が出てくる。

澤井議長 『かわさきのねいろ』はとてもよい音楽だと思うが、全ての学校で歌われているのか。

教育委員会 各学校で歌っている。「子どものためのオーケストラ鑑賞」の時も全員合唱で歌った。

高田委員 東京交響楽団を川崎市は助成しているのか。こういう機会を利用して助成するという側面もあると思うが。

事務局 東京交響楽団に対して、川崎市から助成金は出しておらず、ミュージアにフランチャイズで入ってもらうので施設使用料を減免にしている。またフランチャイズ協定の中で教育事業の実施なども定めており、助成というよりも双方協力しながら事業を行っている。

高田委員 地域のアマチュア楽団と協力しながらプログラムに組み込んでいくことは考えられないか。

野畑委員 東京交響楽団とアマチュアは一緒にはできない。

教育委員会 「音楽のまち・かわさき」としては各区でやっているが、教育委員会事務局では特には連携していない。地域に開かれた子どもの音楽活動としては、リコーダー奏者や和太鼓の演奏家など、地域の方を学校に呼ぶ体験授業はしている。

高田委員 質の上下はあるが、生音を聴く・体験するという機会は貴重なものだと思う。

澤井議長 「ジュニア音楽リーダー」の育成についてだが、どのぐらい学校が教育を受けて

いるかを知りたい。

教育委員会 今年は中原区・多摩区15校のうち10校が参加している。3年に一度は回ってくるよう設定している。対象は中学校の吹奏学部であり、1回あたり150人から200人くらい。10人に分けて他の学校と混じって行すが、他校と行うことがよい刺激となっている。練習時間は1回2時間程度。

野畑委員 「子どものためのオーケストラ鑑賞」を拝見した際に、「プログラムをしまってください。」と最初にアナウンスしていたが、音が出てもいいからプログラムを手元で見ながら鑑賞した方がよいと思う。また、ベートーヴェンの運命を一楽章だけ演奏し、一楽章が終わった時に拍手が起きた。本来は一楽章で終わるものではないので「今日は一楽章で終わりだが、普通はここで拍手はしないものだ。」など、実際のマナーを併せて教えてあげるとよいだろう。

城谷委員 とてもよかったと思う。

猪口委員 関係する父母が自分の子どもの番が終わると席を立つのはどうかと思う。

教育委員会 以前はもっと多かったが、プログラムの組み方を工夫し、大分解消してきた。今後も、「子どもたちのためにも是非最後まで鑑賞してほしい。」ということ伝えたい。

事務局 欠席委員から「子どもの音楽の祭典」の広報について質問がきている。

教育委員会 区役所、市民館、図書館などの広報ラックに開催のチラシを配架した。また、市政だよりや、教育委員会の広報誌「教育だよりかわさき」にも掲載したほか、テレビ(tvk)、ラジオ、新聞などに広報してもらった。

高田委員 それらの広報をしているようだが、私は委員をやっていないれば知らなかったと思う。出演する子どもの父兄や父母以外は少なかったと思うし、もう少し関係者以外にも周知できればと思う。

林委員 TwitterやFacebookには載せているのか。

教育委員会 市のホームページには掲載している。

林委員 Facebookだと周知に効果的である。

事務局 Facebookは検討段階だが、シティセールス・広報室の公式Twitterはある。今回の広報手段としては行政としてはかなり広く行っていると思う。高田委員の言うように父兄以外の音楽に興味がある人々も呼び込まなければいけないと思うので、有効な方法を検討していく必要があるかと思う。

林委員 Twitterはどのくらいのフォロワーがいるのか。

事務局 1,000人強くらいである。

林委員 市政だよりに掲載しても若い世代は、新聞もとっていない人が多いので見ない。

猪口委員 川崎市の人口の中でシニア世代が多いのであれば、TwitterやFacebookなどよりも今までの媒体が必要だ。

事務局 様々な世代に対応する方法が必要だと思う。

そのほか、欠席委員からの意見として、場面転換のつながりの悪さなどの構成は

どうかにならないか。また、表彰は演奏順ではなく、小・中学生の順にはならないか。その順序であれば、読みあげの時間を短縮でき他に時間を割けたのではないかと意見をもっている。

教育委員会  
澤井議長 それは反省点であり、教育委員会の中でも来年に向けての改善点と把握している。他に意見がないようであれば、ここで教育委員会へのヒアリングはここまでとする。

(教育委員会職員退出)

高田委員 小・中学生への音楽のきっかけ作りはしたが、高校生へのきっかけ作りはしているか。

事務局  
澤井議長 これと同じ全市レベルのものは今のところないと思う。

公教育の場では限界がある。それ以外に市全体の取組や文化団体との共同などについて検討する余地はある。

高田委員 ミューザを使って高校生に演奏させてあげたい。機会を平等に与えてあげたい。

林委員 高校生だとバンド活動もやっている子が多いので、クラシックだけでなくバンドもやるといい。

事務局  
澤井議長 アマチュアバンドのミュージックバトルなどはある。

それでは議題(1)については事務局の方でとりまとめをお願いしたい。それでは議題(2)「文化芸術振興計画の改定について」について事務局説明をお願いしたい。

事務局 川崎市文化芸術振興計画は平成20年に策定された。計画年度として平成25年度までを設定している。第2期の文化芸術振興計画を来年3月に策定し、また新たな形で文化芸術の振興を図っていく必要がある。文化芸術振興計画の改定については現状把握している課題の方向性を考えていかなければならない。

1つ目の主要課題として、文化の枠についての定義付けがあげられる。川崎市の特性、大山街道や東海道など歴史などの文化も踏まえた上で枠を決めて振興計画を策定していく必要がある。

2つ目は体系についての整理である。文化芸術振興計画には文化の創造、情報の共有、文化を支える人材の育成というような3つの基本目標が掲げられている。基本的には新しい文化芸術振興計画になっても、この目標は変わらず、これを達成するためにどのような体系を作っていくかということが必要と考えている。今の計画では目標達成の為の環境整備をしていかなければならないということで、8つの環境整備が定められている。また、これとは別に文化的施策の視点を反映した各事業の取組の施策体系がある。これらの体系の組み方が複雑で分かりづらい部分があるので、誰が見てもわかるような形に整理する必要があると考えている。

また、第1期計画策定後に国や市でも動きがあった。国では劇場法の制定、文化芸術の振興に関する基本的な方針(第3次基本方針)の策定があり、国と民間の役割などが見直されている。市では音楽のまち、映像のまちなどの文化を基にしたま

ちづくりが定着するとともに、文化財の保護活用計画などの関連計画も策定されており、今の市の文化施策が求められているものを反映する必要がある。

4つ目は振興計画の進行管理を担っている文化アセスメントの検証である。岡本太郎美術館の搬入路拡張やアルテリッカの他地区への拡大など、意見の反映が進んでいる部分もある。一方で、大きな中心的な文化事業はすでにアセスを行っており、事業へのアセスから環境整備などのジャンルへのアセスに変えるなどもひとつの考え方であり、これらについては振興会議の中で適宜委員に諮りたい。

林 委 員 「文化の枠についての定義を定め」というのは今までのアセスメント対象の川崎市の文化の枠を変えようと思っているのか。今までの文化芸術振興計画とどのような部分を変えようと思っているのか。全体的に抽象的である。

事 務 局 曖昧であった枠を定め、計画の対象を明確にするという趣旨である。

澤 井 議 長 第一期計画策定時、文化室はデータベースの作成を検討したが、民間団体の活動をどこまで拾うかなど意見が分かれて結論が出ず、最終的には、行政が関与している文化活動を対象とした振興計画となった。文化活動の範囲を広げれば広げるほど、それらを具体的に捕捉することが難しく具体的なデータベース化を阻んだ経緯がある。

林 委 員 文化政策としては、民間がやっていることをどのように支援できるかを考えていくべきだ。限られた予算の中で自主イベントをやることだけがいいことなのか、市民が手弁当でも質の高いことをやっているところを全面的に助成するシステムができないか。日本のボランティア団体は経済的にもマネージメント的にも厳しい立場にある。川崎だけでなく国としても市民の活動をサポートする体制を作ることが大切だ。

野 畑 委 員 市民の活動でいえば、文化協会の資本はどうか。

事 務 局 市の補助金が一部出ている。

城 谷 委 員 現在4万人程度文化活動を行っている。費用は市が年間1千万円弱出している。各団体は費用の8~9割は自分達のお金でやっているが、補助金は1割でも大きな助けとなっている。

澤 井 議 長 資料4の振興計画の進行管理で現在、アセスは振興計画に載せた事業の重点文化芸術振興事業という単位でやっているが、大きい枠組みでとらえようという意見があった。もっと大きい政策事業で議論してもいいのではないかと議論は前からあった。

事 務 局 例えば福祉事業の「しあわせを呼ぶコンサート」1つだけを焦点にするにはアセスの対象として小さすぎるが、福祉・医療への文化芸術を活かした取組といたくりで市としてどこまでの計画の内容を進められているかといった目線でアセスメントをできないかと考えてみた。

澤 井 議 長 大きな政策ベースでもいいが、振興会議の意見を受け止める際に、事業ベースのアセスメントであれば、市は事業のやり方を見直すか予算を見直す程度の規模なの

で比較的实施しやすいが、政策ベースであれば大きな意見が出てくる。政策議論になってしまうと、提言の内容を反映することが難しくなる面を考える必要がある。

事務局 提言を実現するためのある程度の体制を作らないと難しいと考えている。

澤井議長 そこが文化アセスメントにどこまで市として、期待しているのかということも関係してくる。

事務局 平成25年度の文化アセスメントの対象事業についてはこれからの改定を考え、ある程度大きなくくりで選定したものと従来どおり事業ごとに選定したものと2パターン用意してみた。これについては次回の振興会議で対象を決定したいと思う。

澤井議長 他に無いようであれば本日はこれで終了とする。